

トップエスイー ソフトウェア開発実践演習



ゴール指向型分析を用いた機械学習ソフトウェア システムの品質特性の抽出

株式会社富士通研究所 仲道耕二 (nakamichi@fujitsu.com)

MLS開発における問題点

機械学習を含むソフトウェアシステム(MLS)は、訓練済みモデルの精度が訓練データに依存したり、運用時の入力データの分布の変化により精度が低下するなど、従来のソフトウェアシステムとは異なる特徴を持つ、MLSの開発において、どのように品質を保証すべきかは現状明確ではなく、MLSの特徴をとらえた品質特性を特定する必要がある。



ゴール指向分析の適用による解決

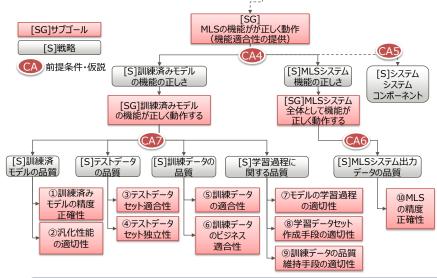
前提条件・仮説(Context & Assumption: CA)や、分解方針(Strategy)に基づいて要求を分解するゴール指向分析手法の一種である「GQM+Strategy」を用いてMLS特有の品質特性を抽出した。その際、高品質なMLSの提供をトップゴールと位置付け、機械学習やMLSの各種の特徴をCAとした。また抽出したMLSの品質特性を品質規定SQuaREの拡張として位置付けた。

GQM+StrategyによるMLS品質特性の抽出

■ [STEP1]機械学習/MLSの特徴や、品質の考え 方に基づくCAの定義(以下は定義した14個のCA の一部)

	前提条件·仮説(Context & Assumption:CA)	
CA4	MLSシステムの機能は以下で構成:(1)訓練済みモデル/(2)システムコンポーネント(監視機能、ルール制御機能、その他)/(3)MLSシステム自身	
CA5	システムコンポーネントの機能の正しさや信頼性は通 常のソフトウェア品質が適用できる	
CA6	システムとしての機能は、訓練済みモデルとシステム コンポーネントを組み合わせたシステム全体を考える	
CA7	訓練済みモデルの生成は以下の要素が関連 ・訓練データ:学習アルゴリズムへの入力 ・テストデータ:訓練済みモデルの検証用データ ・学習過程:学習アルゴリズムを用いた学習工程	

■ [STEP2]GQM+StrategyによるMLS品質特性の抽出(下図は機能適合性に関するMLS品質特性の抽出過程のみを示す)



抽出したMLS品質特性(全17特性)

■ 抽出したMLS特有の品質特性を、ソフトウェア品質規定 ISO25010(SQuaRE)の拡張したものとして整理

SQuaRE ソフトウェア品質		MIC日樹林林	
品質特性	品質 副特性	MLS品質特性	内容
機能適合性	機能正確性	①訓練済みモデルの精度 正確性	訓練済みモデルからの出力データの正確さ(精度)の程度
		③テストデータセット適合性	テストデータの訓練データの統計的傾向の一致の度合
		④テストデータセット独立性	テストデータと訓練データが独立しているかの度合
		⑦学習モデルの学習過程の 適切性	使用する学習アルゴリズムやハイパーパラメータ、学習結果 評価のための評価指標の適切さ
		8学習データセット作成手段 の適切性	訓練データ、テストデータ量を確保するための手段(水増しなど)の有無や程度
		⑨訓練データの品質維持 手段の適切性	訓練データ中の欠損値/外れ値/バイアスなどの除去手段 の有無や程度
		⑩MLSの精度正確性	MLSの出力データの正確さ(精度)の程度
	機能 完全性	②汎化性能の適切性	訓練済みデータの汎化の程度
		⑤訓練データの適合性	訓練データと想定データ母集団の統計的性質の一致の度合
		⑥訓練データの目的適切性	訓練データの説明変数の適切さの程度
信頼性	成熟性	⑪入力データの適合性	入力データの訓練データの統計的傾向の一致の度合
		⑩運用中の訓練済みモデル の精度正確性	運用中の訓練済みモデルからの出力データの正確さ(精度) の程度
		⑬訓練済みモデル品質確保 手段の適切性	再学習などの訓練済みモデルの精度を維持する手段の有無 や程度
		⑭運用中のMLS精度正確性	運用中のMLSの出力データの正確さ(精度)の程度
		⑮MLS出力データの適合性	MLS出力の異常値の発生頻度など、統計的性質の程度
		¹⁶ MLS出力データ確認手段 の適切性	MLS出力の異常値の検知手段の有無や検知の程度
		⑪MLSの品質確保手段の 適切性	ルール制御やモデルのロールバックなどのフェールセーフ機能の有無や程度

今後の予定

- ■「機能適合性」「信頼性」以外のMLS品質特性の特定
- 特定した品質特性に対する測定メトリクスの詳細定義
- 顧客の要件に基づいた、重視すべき品質特性とメトリクスの抽出手法のツール化によるMLS開発者支援